

東京審美会のインプラント矯正は歯科医療の最前線

矯正治療の歯の移動の原動力は、歯と歯の引っ張り合いや、押し合いです。

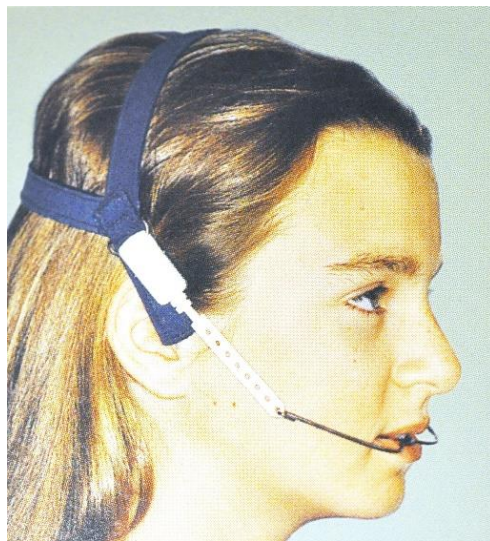
よく、ワイヤーを曲げたループや、コイルスプリング、ゴムなどにより歯が動きますので、それらが歯の原動力と思われがちですが、そもそもループもコイルスプリングもゴムも“引っかける歯（アンカー）”がなければ力を発揮できません。

そこで“引っかけられた歯”には、どうしても好ましくない動きを生じてしまうことがあります。例えば、前歯を後ろに引っ込めたい！と奥歯にばねやゴムを引っかけると、引っかけられた奥歯が、前歯に引っ張られて前の方に出てきてしまうことがあるのです。

これを“アンカー・ロス”といいます。

好ましくない“アンカー・ロス”が起こると、奥歯の噛み合わせがおかしくなってしまいます。そこで、移動する力の原動力のアンカーを、歯に求めない方法が考えられました。これが“顎外固定装置”です。

これは、頭の上に帽子のようにかぶせたり、頸にかけたりしながらお口の装置につけるといふ装置です。昔はこのような装置をつけていらっしゃる方をよく、お見かけすることがありました。



〈顎外固定装置〉

(FIXED ORTHODONTIC APPLIANCES — Principles and Practice より)

しかし、この顎外固定装置、毎日使うとなると辛いところがあります。
そもそもこの装置を、一日中、お仕事している時にも、学校に行っている時にも、家で勉強している時にも、そしてなんと就寝時にも、装着しなければならないとしたら、きっと多くの方は、矯正治療を受ける気持ちが半減してしまうのではないのでしょうか？

ところが、今は、このような大げさな顎外固定装置をつけなくても大丈夫なのです！
『インプラント矯正』お聞きになったことがありますか？



〈矯正用インプラント〉

歯を移動するために、一時的に小さなインプラントを使う方法です。なお、このインプラントは、矯正が終わったら速やかに外してしまいます。まさに、矯正治療のためのインプラントです。



〈矯正インプラントによる歯の移動〉

歯科矯正では、歯を移動させ、理想のかみ合わせを作ります。歯の移動には、どのような装置を用い、どのようなテクニックを使うか？ お時間がかかる治療ですから、患者さまに喜

んでいただける方法であるか？これも大切なポイントとなります。

矯正用のインプラントは、たとえ一時的なものであっても、骨に埋め込むのですから、清潔な環境で、安全に行わなくてはなりませんもちろん、**口腔外科手術に対応できる清潔なクリニックで行わなくてはならない**ことは、言うまでもありません。

インプラントを知り尽くしている東京審美会なら矯正のためのインプラントも安心して受けていただくことができます。

東京審美会は、みなさまの美しさを応援しています。

矯正インプラント豆知識

矯正用の小さなアンカー・インプラントは、さまざまな種類がありますが東京審美会で採用しているアンカー・インプラントは、日本で開発されたデュアルピッチとよばれる2条ネジ（ダブルピッチ）と1条ネジ（シングルピッチ）を組み合わせた特殊な構造でそれぞれ、外側に存在する硬い皮質骨と、内部に存在する柔らかい海綿骨を的確につかみ最大の維持力を得るように設計されています。

また、ダブルカッティングエッジにより埋入トルク（回転力によりインプラントにかかる力）を低減するため、破折する心配が極めて少なく、また、埋入後の逆回転を防止する機構を備えています。さらに、最も患者さまにとって大切な要件となる口腔粘膜に触れるインプラント表面の触り心地も非常になめらかで、引っ掛かりがほとんどありません。

精密な設計加工と安心な材料成分、触り心地に至るまできめ細かな配慮がいき届いている日本製の矯正用インプラントです。